



女性職員活躍事例 第6回

広島管内で活躍されている女性職員の皆さんにお話を伺いましたので御紹介します。

今回は・ **鳥取少年鑑別支所 専門官** です。



専門官の経歴

採用 貴船原少女苑
その後の勤務歴
貴船原少女苑 専門官
高松少年鑑別所 専門官
丸亀少女の家 専門官
広島少年院 専門官
広島少年鑑別所 専門官
現職

Q1 現在の業務内容について教えてください。

鳥取少年鑑別支所の鑑別部門で、入所している少年たちの処遇、保安関係や地域援助という仕事を行っています。

処遇と言うのは、少年たちの生活全般(運動、入浴、食事等)を行ったり、審判に向けて気持ちを安定させるための面接を実施することです。

保安関係については、施設の維持管理、保安事故の防止、矯正護身術の指導等主に公安職としての仕事内容です。

地域援助については、法務教官としてこれまで身に付けてきた処遇技法(例えば面接の仕方、アサーショントレーニング、アンガーマネジメントなど)を使いながら、地域の学校で非行防止教室を実施したり、問題行動のある子供たちと面接をしながら支援したりしています。

Q3 この仕事に就くきっかけについて教えてください。

大学で教育学を学んでいたこともあり、教育関係の仕事に就こうと考えていました。そんな時に法務教官採用試験のお知らせが大学の掲示板にあり、法務教官の仕事内容を知らないまま試験を受けて採用されました。

Q2 どのような職業をされていたか。現在の仕事をする上で役に立っている経験等があれば教えてください。

大学卒業後、すぐ法務教官として少年院で働き始めたので、法務教官以外の職業に就いたことはありません。

Q4 これまでこの仕事を続ける中で、特にうれしかったことや達成感を感じたことはありましたか。

担当していた少年が、出院後再非行せず、仕事や育児を頑張っているという手紙や電話をもらった時はこの仕事をしてよかったと感じました。また、少年院では1年を通していろいろな行事があるのですが、盆踊り大会(今はもう実施されていません)や運動会といった大きな行事で、職員と少年が力を合わせて準備や練習を重ね、当日楽しく実施できた時は何とも言えない達成感がありました。

Q5 反対に、困難なことや問題はありましたか。また、それをどのように乗り越えてきましたか。

処遇困難な少年や規律違反行為を繰り返す少年を担当したときは、どうすれば問題解決できるかということをいつも考えていたように思います。何か問題が起きるたびに、寮職員で話し合い、その少年に合う処遇方法を模索していました。そして、担当する少年と信頼関係を早めにもっていました。

Q6 仕事をする上で、心掛けていることはありますか。

自分一人で仕事をしているわけではなく、他の職員と話をしながらチームで仕事をするのを心がけています。自分の考えや経験だけで仕事をすると必ず行き詰まったりするので、なるべくいろいろな職員の話聞きながら考えの幅を広げていこうと考えています。

Q7 業務を進める上で、相談できる職員はいらっしゃいますか。

います。業務内容にもよりますが、仕事上の軽い悩みから人生の分岐点に立たされた時の悩みなど同僚や上司の方に相談し、アドバイスをいただけてきました。

Q8 これまでのキャリアを振り返られて、いかがでしょうか。

少年鑑別所で約5年、少年院で約25年勤務してきましたが、あっという間にこの年になったなあと感じています。そして、時代とともに処遇内容や処遇技法も変化してくるため、いくつになっても勉強だと感じています。そしてこれまでを振り返ると、拝命した頃に先輩職員から教わったことは今でも覚えていますし、一生忘れないと思います。そのころの先輩職員のように自分がなれているかどうかわかりませんが、自分のこれまでの経験が後輩職員の仕事の役に立つのならば、どんどん伝えていきたいと思っています。

Q10 女性が仕事を続ける上で、何が大切だと思いますか。

なんといっても家族や周囲の人の理解が必要だと思います。女性であれば、出産、育児があり、年を取れば介護の問題も出てきます。男性よりもぶち当たる問題は多い気がします。独身であっても家庭を持っていても女性が仕事を続けていくのは当たり前前のことですが、一人の力ではなかなか続けていくのは難しいと感じています。周りの人の協力を得るためにも、日ごろから会話をたくさんして仲の良い人や協力してくれる人を増やすなどコミュニケーション能力を高めておくことが大切だと思います。そして今はワークライフバランスの時代です。家族や友人を大切にしながら仕事を続けられたらいいと考えています。

Q9 仕事のやりがいについて教えてください。

現在は、地域援助の仕事をする事が多いので、地元の中学校や高校へ行き、非行防止教室を実施したり、鳥取法務少年支援センターへ来る少年たちと色々な話をする事にやりがいを感じています。

Q11 どのような職員に、この世界に入ってきてもらいたいですか。

まず、体力がある人です。この仕事は頭と体両方を使う仕事です。心身ともに力がある人に入ってきてもらいたいです。

そして次に、少年たちを好きになれる人です。矯正施設に入ってくる少年たちはいろいろな問題を抱えているため、職員に対して反抗的であったり、べったり甘えてきたり、猜疑的だったり様々な言動をします。職員も人間なので、腹が立つこともありませんが、それでも見捨てず根気強く少年に付き合う必要があります。こういう少年たちを好きだなと思える職員に入ってきてもらいたいです。